農学国際教育協力研究センター（ICCAE）での３年間を振り返って

JICA長期派遣専門家（アフリカ人造り拠点（AICAD）プロジェクト）
（前・研究機関研究員）　槇 原 大 悟

2003年3月をもって農学国際教育協力研究センター（ICCAE）研究機関研究員の任期を満了し退任いたしました。学生時代から国際協力に関心があった私にとって、ICCAEにおける研究および国際協力活動は、今後のキャリアデザインを考える上でも非常に貴重な経験となりました。3年間の任期を有意義に過ごすことが出来たのは、竹谷裕之センター長を始めとするICCAEスタッフの皆様からの暖かいご支援のおかげであり、心から感謝申し上げます。

ICCAEでの活動

ICCAE在任中は、主にカンボジアの農業高等教育において中心的な役割を果たしている王立農業大学（RUA）の教育強化プロジェクトに関わってきました。カンボジアでは、農業高等教育にかかる人材や教材が著しく不足し、カリキュラムの改善も遅れているため、社会のニーズに応じた教育を行うことが困難な状況にあり、農業および農業関連産業の振興に要する実践的人材の育成ならびに農業技術の開発･普及はかならずしもうまくいっていません。同プロジェクトにおいて、私は松本哲男教授や客員教授としてICCAEに来られたカンボジア人教官らと共同で、学部カリキュラムの改善、大学院設立計画などに取り組みました。

ICCAEとRUAが共同で開発したカンボジアで始めての単位制カリキュラムは、2001年にRUAの学部課程に実際に導入されました。新カリキュラム導入による教育改善の効果については更なる調査が必要ですが、一般に教官および学生からの評判は良く、カンボジア国内の教育関係者の注目も集めました。今後は、RUA以外の農業高等教育機関はもちろん、他分野の高等教育機関においても単位制度が導入されることが望まれます。カンボジアの高等教育機関全体に単位制度が導入されれば、単科学校的色彩が強いカンボジアの高等教育機関間での単位互換制度の確立も容易になり、学際的教育の推進に役立つものと考えられるからです。大学院については、ICCAEとRUAの共同作業の結果、2002年度に農業科学、畜産科学、森林科学、水産科学および農業経済学専攻において修士課程が開設されました。カンボジアの農業高等教育を強化するために現在最も必要とされているのは、教育にかかる人材の育成ですが、以前は農学分野における修士号以上の学位をカンボジア国内で取得することが出来なかったため、農業高等教育にかかる人材育成を自国で行うことが出来ませんでした。RUAにおける大学院開設は、この問題の解決に役立つものと期待されています。

今後の抱負

上述したようなICCAEにおける活動を通して、私は将来にわたって国際協力の現場で活躍する研究者でありたいとより強く思うようになり、もっと現場での経験を積みたいと考えるようになりました。このような時に、JICAの「アフリカ人づくり拠点（AICAD）プロジェクト」で研究開発事業を担当する長期派遣専門家を募集していると紹介され、運良く採用していただくことになりました。この結果、平成15年4月から同プロジェクトの長期派遣専門家としてケニアに滞在しています。

AICADでは、大学・研究機関の学術知識、NGOや農業普及員の実践的知識、農民や地域コミュニティーの伝統知識を共有・融合することを支援し、アフリカ人によるアフリカ開発を達成することを目指しています。そのための柱となる3つの事業である「研究開発」、「研修普及」および「情報広報」のうち、私が担当している研究開発事業では、ケニア、タンザニアおよびウガンダの大学研究者への研究助成を通して、3ヶ国の大学人がより実際的に貧困削減に貢献できるよう支援しています。なお、ICCAEとAICADとの間には学術交流協力協定が結ばれており、北川勝弘教授が同プロジェクトの国内支援委員を務めるなど、両者は密接に連携しています。私個人としても、今後、ICCAEとAICADの共同研究プロジェクトを立ち上げるなど、両者の連携を強化し、アフリカの貧困削減に貢献したいと考えています。